

## 自然生態園を中心とした環境学習 横浜市立茅ヶ崎小学校

### 学校の概要

#### 学校規模

学級数：31学級

児童数：1,120人

教職員数：50人

#### 体験活動の観点からみた学校環境

横浜市の北部に位置する港北ニュータウン中央部に位置し、誕生8年目の人口16万2千人の都筑区に立地している。

学区は、地下鉄の「センター南駅」周辺の大型商業地・マンション住宅地を含み、開発のめざましい、若い世代の人口が急増している「まち」である。

ニュータウン開発はめざましいが、多くの緑地は残されている。その中で本校に隣接した茅ヶ崎公園(9.5ha)に「自然生態園(2ha)」という、ふるさとの自然(横浜の里山)を残している場所がある。自然生態園は、郷土の樹林や水辺の動植物などの保護区となっており、生き物と子どもたちが自然にふれあえる場として活用されている。

「まち」全体で環境教育を推進しているため、学校も環境教育に積極的にかかわっている。また、「まち」の伝統文化、遺産、農業にもふれあいながら、「まち」の人々の協力も得て学習を進めている。

#### 連絡先

〒224-0037

神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎南

一丁目11番1号

電話：045-942-2444

FAX：045-942-9742

電子メール：chigas1f@city.yokohama.jp

### 体験活動の概要

#### 活動のねらい

環境や環境問題に対する関心と感受性を身に付け、進んで行動できる子の育成

身近な自然等の環境や環境問題を学ぶことを通して、問題を解決する能力や表現力を身に付ける子の育成

環境事象にかかわる基礎的、基本的な理解をもつ子の育成

#### 主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

生活科、理科、総合的な学習の時間等において全学年が自然生態園を活動の場に生かす。

1・2年生、生活科学習

- ・ 季節の生き物、木の実採集や草花遊び(12時間)

3・4年生、理科学習、総合的な学習の時間(20時間)

- ・ 季節変化による動植物の観察や保護活動

5年生、総合的な学習の時間

- ・ 稲作(田植え、稲刈り、もちつき)
- ・ 動植物の保護活動(総合65時間)

6年生、総合的な学習の時間

- ・ ホタル飼育と放流、動植物等の自然生態にかかわる保護活動(総合50時間)

#### 体制等の工夫

自然生態園運営委員会の設置(6名)

#### 活動の成果等

自然の不思議さにふれ、共生していこうとする態度が育成されている。

生命の大切さを実感していこうとする実践力が育っている。

観察力、表現力が身に付いてきている。

1 活動に関する学校全体の計画  
「米づくりを中心とした活動」より

(1) 活動のねらい

ア 自然生態園で米づくりを体験することによって、食料生産と自然保護のかかわりについて理解を深め、主体的に活動できるようにする。

イ 自然生態園での活動を通して、自然のすばらしさ、不思議さ、おもしろさを発見し、生涯にわたって自然とともに生きていこうとする心情の素地を養うことができるようにする。



(2) 全体計画

ア 活動の実施学年及び名称

第5学年 「水田から見える生態園」 米づくり, 自分づくり

イ 活動内容

**<米づくりにかかわる活動>**

開墾・苗縛り・田起こし・田植え・水路整備・草取り・害虫駆除・稲刈り・稲干し・脱穀・餅つき

**<自然にかかわる活動>**

生態園で見つけた自分の活動(例: マイ田んぼの米づくり・微生物の観察・かかし作り・ゴミ拾い・竹や木切れを使った物作り・山の中での基地作り・パソコンでの活動のまとめ等)

ウ 教育課程上の位置付け

- ・ 米づくりは、5月から12月まで。総合的な学習の時間と社会科とを関連付けて計画し、活動している。(総合的な学習の時間24時間, 社会科5時間, 道徳1時間, 計30時間)
- ・ 自然とのかかわりに関する学習は、総合的な学習の時間で活動している。(計30時間)

エ 活動場所

茅ヶ崎公園自然生態園

オ 継続の状況

**<自然とかかわる活動>**

- ・ 本校は、環境教育をテーマに7年間研究を続けてきている。その中で、子どもたちは、1年生から自然生態園や隣接する茅ヶ崎公園での活動を通して、自然の動植物とのかかわりを深めてきている。
- ・ 空き缶等身近な材を使って作るリユースバザー(4年)や、集会活動でまちの清掃活動(「きれいきれい集会」)などを行い、自然や環境をまもっていくための実践的な活動を継続してきている。

**<米づくりの学習>**

- ・ 5年生の社会科のテーマを「人間が生きていく上で大切なもの」とした。その中で子どもたちは、食料を一番に取り上げ、「食料はどうやって作られるのだろう」の課題のもと、食料生産に関心をもって取り組み始めている。
- ・ 子どもたちは、昨年米づくりをした現6年生から籾殻をもらい、米づくりの仕方等について学んでいる。そのため、米づくりをしたいという意欲は高まっている。

## 2 活動の実際

### (1) 活動の場

- 茅ヶ崎公園自然生態園内にある谷戸。里山の自然を再現し、保護するために平成13年4月整備され、開園した。
- 本年は池側の湿地部分も開墾し、活用した。

### (2) 指導者・協力者

- 地域の支援者  
農業従事者の方は、港北ニュータウンが今のようなまで、米づくりをしていた人が多いため、田植え、稲刈りなどのアドバイスを受けたほか、苗づくりの支援もお願いしている。
- 保護者  
餅つき大会は、収穫祭の一環として保護者と学校との共催で行っている。用具や材料などの手配をいただいている。また、臼や杵等の道具なども地元の保護者から借りて餅つき大会を実施した。




### (3) 年間計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活児 動童 の		縛り草 り・取 苗	田かし 田 植き・起 え・代こ	除害 虫の 駆	草取 り	水 の 管 理	稲刈 り	脱穀	餅つ き			
協力 者		ポ地 ラ域 ンの テイ ア	ポ地 ラ域 ンの テイ ア				ポ地 ラ域 ンの テイ ア		ポ地保 ラ域護 ンの者 テイ ア			

### (4) 児童の活動状況


#### <開 墾>



#### <水路づくりも 自分たちの手で>

田植えのころは、水がたくさん入るように水路を掘り起こし、夏が過ぎると、土を積み水が入らないようにする。地下水は夏でも冷たいことに気づき、その冷たさの中、子どもたちは手作業でがんばった。

手前の湿地の方が、日が当たって、米づくりには適していますね。」という地域の指導者のアドバイスを受けて、開墾が始まった。しかし、それは予想をはるかに上回る難事業。草は根を張り全く抜けない。周りを掘り起こし、根ごと取り除く。土はぬかるみ、いったん足を踏み入ると、なかなか抜けない。困難な実体験の中、おいしい米を夢見て、真っ黒になりながら取り組んだ。







### < 足にぴったり吸い付くヒル >

～ 田植え ～

ヒル・ヤゴ・オケラ・ドジョウ・  
……。初対面の生き物に驚きながら  
の田植え。泥に足を取られながら、  
1本1本、倒れないようにしっかり  
植えていった。

### < 苗しばり >

育てた苗を植えやすいよう  
に一握りずつ束ねていった。



### < 初めて持つ鎌 >

収穫量 35kg

地域の方に持ち方を習い、おそるおそ  
る握る鎌。刈った稲の束をわらで結ぶの  
も難しい。しっかり実の入った米が収穫  
できた。

### < 脱穀も手作業で！ >



指先にくっと力を入れて、  
一粒一粒脱穀した。



### < 地域の方・保護者の方の協力で - 餅つき大会 >

2カ月前から準備を始めた餅つき大会。臼や杵は、地元  
の方からお借りした。保護者の方は、前日に米をとき、材  
料の買い出しをした。当日は、155名の児童と100人  
を越す保護者、地域の方々とともに、柔らかいお餅をいた  
だいた。最後に、お礼として、運動会で踊ったソーラン節  
を力強く披露した。

## (5) 活動の発展 里山で見つけた自分の活動

### < お米を守ろうプロジェクト >

「このままじゃ、鳥に食べられる！」  
収穫が近づいた頃、新しい活動が始ま  
った。キラキラした物を飾る、おとりの  
カラスを作る、かかしを作る。各々  
材料を工夫し、楽しみながら取り組ん  
だ。



### < 米作り一年間のまとめをパソコンで >

今までデータベースに書き込んできた文章などをもと  
にして、プレゼンテーションソフトを使ったまとめをし  
た。初めて使ったソフトだったが、楽しみながら、一年  
間の体験や苦勞を振り返ることができた。



分からない操作もお互  
いが知っていることを教  
え合い、写真・音声・音  
楽なども取り込んで完成  
させることができた。

### 3 その他の生態園での体験活動



下学年や地域の人へ発表中

自然生態園の自然を守ろう 6年生

《生態園にホタルをよみがえらそう》

昔は、夏になると、たくさんのホタルが飛びかっていた。『昔の風景を取り戻したい』と、ヘイケボタルを飼育し放流している。夏休みには、観察に訪れる地域の人々300人の前で、自分たちの思いや飼育の過程などを発表している。(総合24時間)

自然生態園の自然を守ろう

《生態園ものしりツアー》 6年生

生態園を守るためにいろいろな動植物を調べていく中で、この地に関わった人々の思いを理解し、『自分たちができること』を考え、実行していこうとするために体験したことを下学年児童や保護者、地域住民に伝えていく活動である。

(総合24時間)



ヘイケボタルの放流

風を感じて(絵画) 6年生

さわやかな春の風と生態園の緑を心で感じながら、5月の風景を写生した。

自然の中には、無限の色があることや空間広がりを感じながら、自然の中でのびのび学習ができた。



春の風を感じながら写生

キノコ観察会 探検サークル

9月の中旬になると、園内の様々な場所に大きなキノコが出現してくる。『横浜キノコの会』の先生を招き、いろいろなキノコの特徴や森におけるキノコの大切な役割などを学習した。41種類を観察することが出来た。

(課外2時間)



採集したキノコを並べて学習会



池でザリガニを捕獲中



アメリカザリガニ・ウシガエル  
捕獲大作戦 4年生

大量に棲息する2つの生き物を調べていく中で「ホタル、エビを食べる。稲の根を切る。」ことに驚いた子ども達は、トラップや仕掛けのポイントを工夫しながら、約400匹以上のザリガニを捕獲してきた。

(総合32時間)

4 体験活動のための体制

- ・ 生態園での活動は、茅ヶ崎公園を管理している横浜市緑政局と連携し、そのほかに横浜キノコの会、都筑区やってみようの会などの諸団体や地域の農業従事者等の協力を受けている。

5 成果と課題

- ・ 生態園全体の活動の中から、自然の心地よさやおもしろさを個々の子どもたちが感じ、新しい活動を生み出していった。実際の動植物にふれあうことは、一人一人の子どもが自分らしく活動できる成果だと考える。
- ・ 四季折々、生態園で活動することによって、季節によって異なる自然のよさや動植物の姿を身近に感じることができ、好奇心を働かせ、より自然に親しむことができるようになった。
- ・ 里山を再現した田んぼでの米作りを体験することによって、自然を守り自然と共に生きながら食料生産してきた人間の知恵や暮らしぶりについて体感することができた。

6 今後の取組の方向

- ・ 本校では、生態園の活動を環境教育の中心に据え、子どもたちの好奇心を旺盛にし、自然に学び、そして、自然に親しむ感覚をみがき、生きとし生けるものが自然と共存し合う喜びを味わわせていきたいと考えている。
- ・ 本校は、平成14年度から、児童数の関係から2校に分かれ、児童数が半数になる。それに伴って、平成13年度まで5年生が取り組んでいた米作りを全校で取り組みたいと考えている。そうすることによって、自分の経験を次に活かしていったり、それを下学年に伝えたりして、自然に対する関心や意欲がより高まるものと考えている。

【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は、開発がめざましい大都市部における環境学習の取り組みの工夫として、近くにある「自然生態園」の活用を行ったものである。生活科、理科、総合的な学習の時間において第1学年から第6学年まで、それぞれ工夫を凝らして「自然生態園」を活動の場として多様な環境学習を展開している。純粋な自然はほとんど見られない都市部においても、このような「里山的自然」を活用することによって、自然を護り自然と共に生きることを体感したり、またそのように生きてきた先人の知恵や暮らしぶりについて体験することができる。

自然に恵まれない都市部の学校においても、工夫次第で子どもが自然を護り自然と共に生きることを体感したり、そこから環境学習などを展開していくことができることをこの事例は示しているといえる。